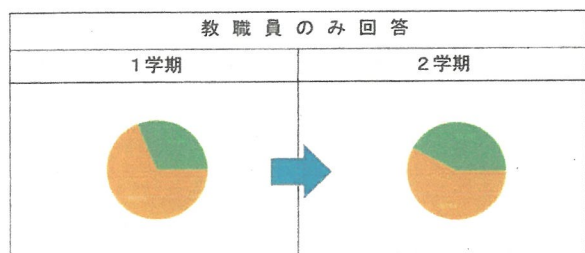


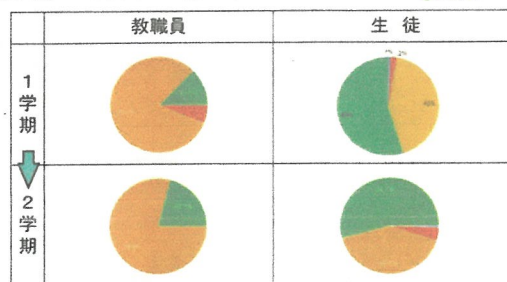
令和5度 学校評価結果 三島東中学校

1 三島東中学校の成果

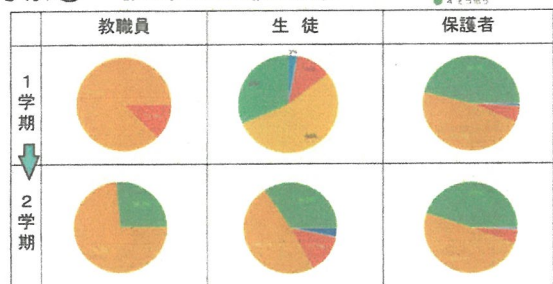
考察② ねらいの提示



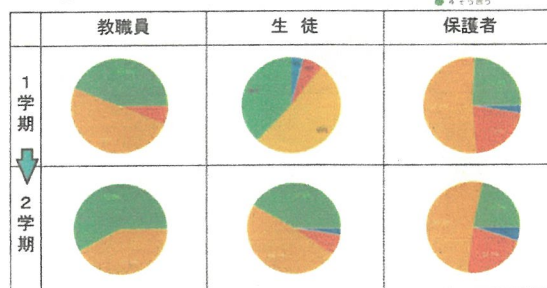
考察③ 楽しい授業



考察⑤ 教師の生徒理解



考察⑦ 進路指導



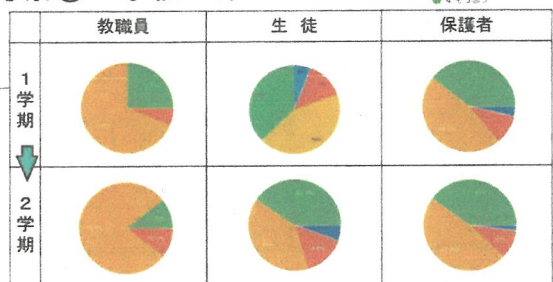
令和5年度の成果と課題

成果

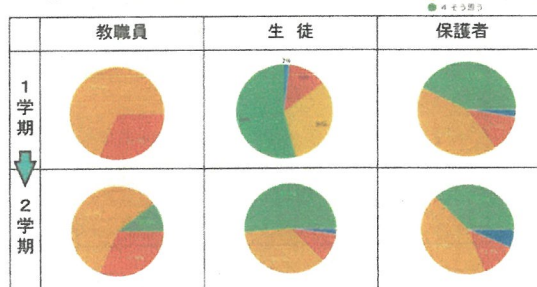
・教職員については積極的な教育実践により、1学期より2学期に改善の傾向がはっきりとある。特に授業に関してはICTの活用を中心に楽しく分かりやすい学びが展開できている。(考察②・③・⑤・⑦)

2 三島東中学校の課題

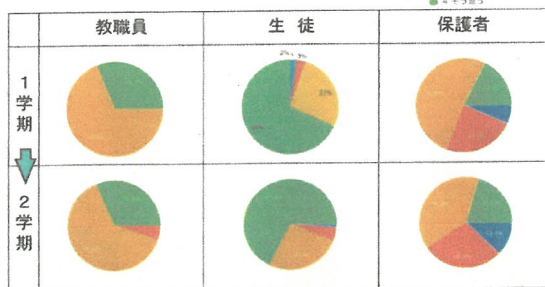
考察① 学校が楽しい



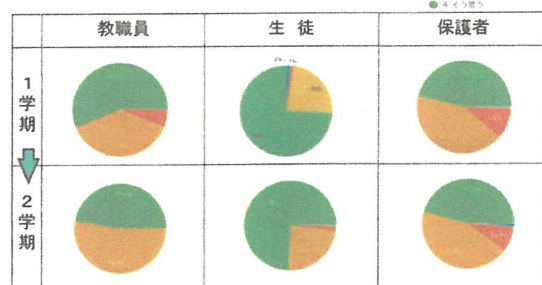
考察④ 家庭学習(宿題)



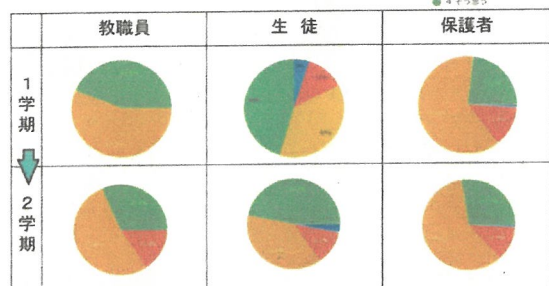
考察⑩ 情報モラル



考察⑨ 交通ルール遵守



考察⑭ 体力向上・健康増進



令和5年度の成果と課題

課題

- ・1学期と同様、学校が楽しいと思えない生徒が20%いる。教育活動の見直しを行うとともに、教育相談や日記指導を充実させていく必要がある。(考察①)
- ・楽しい授業は展開できているが、3者とも家庭学習に課題があると感じている。保護者は家庭でのスマホやパソコンの利用に課題があると考えている人が多く、家庭での学習に大きく影響があると考え(考察④・⑩)
- ・「交通ルール」について、ほとんどの生徒ができていると考えているが、保護者には不安を感じている人が多く、効果的な指導を継続して行う必要がある。(考察⑨)
- ・生徒の体力向上・健康増進にも家庭でのスマホやパソコンの利用が大きく影響していると考えられる。保健体育の授業や学級活動を通じて、全校的な取組を要する。(考察⑭)

2 学校関係者の評価

【市内共通項目】		関係者 評 価	評価シート結果(%)				肯定 評価
A:100~86% B:85~71% C:70~56% D:55~0%達成			4	3	2	1	
1	学校の教育目標の達成に向けて具体的な目標を設定し、校長を中心に組織的に学校運営や教育活動を行っている。	A	73	27	0	0	100
2	自己評価結果を分析して具体的な改善方策を実施し、課題が改善されている。	A	45	55	0	0	100
3	教育活動や評価結果に関して、分かりやすく情報提供できている。	A	82	18	0	0	100
4	保護者、地域住民は、学校運営に積極的に参加・協力している。	A	18	72	0	0	100
5	学校関係者評価委員会は、適切に運営されている。	A	64	36	0	0	100
【学校独自の評価項目】							
6	学校は、学力保障のための授業改善に取り組んでいるか。	A	64	36	0	0	100
7	学校は、生徒の能力や適性に応じた進路指導に努めているか。	A	36	64	0	0	100
8	学校は、不登校やいじめの根絶に努めているか。	A	36	64	0	0	100

評価・提言等		協 議 内 容
1	情報モラルについて	・スマホトラブルが多くなってきている。中学校ではどのようなになっているのか。 ・小学校の5・6年生に調査したところ、23時以降に寝ている児童が30パーセントを超えており、12時を過ぎる児童も少なくない。その原因のほとんどがスマートフォンの利用でスマホトラブルも多くなってきている。 ・考察10の情報モラルの保護者結果が気になるが、様々な災害ではスマートフォンの必要性は問われており逆に持たしておく方がいい。しかし、学校に持ってこさせることは学校生活に弊害がある。 ・スマートフォンは、家庭での指導力だけでは押さえることができない問題になってきており、学校での情報モラル教育の必要性は高まってきている。
2	家庭学習について	・小学校でもタブレットを使った学習が進んでいる。タイピングコンテストでもかなりも生成を残す児童が増えてきており、それだけでも将来の仕事に生かすことができる。しかし、トラブルも多くなってきており、アクセルとブレーキの使い方を学校でも教育していかなければならない。 ・ICT機器を使った学習では生徒が興味を持ち、前向きに取り組む姿がみられるが、それがうまく学力向上と結びついていない。 ・ICT機器を使った学習は進んでいるが、全てそれがいいわけではない。従来の黒板を使った教師指導型の授業形態と上手く連動し、ハイブリッドな学習形態を確立していかなければいけない。 ・家庭学習の不十分さは保護者・生徒はほぼ同じ意識だが、教師の意識とは開きがある。TV、ゲームパソコン、携帯電話等の使用時間が長く、学習にも身が入らず家庭学習が不十分である。 ・家庭での過ごし方を含め、家庭学習の習慣や時間が影響していると考えられる。
3	生活について	・地域のバドミントンクラブに所属しているが、そこに東中生の女子生徒が参加している。その5人はきちんとした態度で参加し、気持ちがよい挨拶がよくできる。接していても本当に気持ちがよく生徒はしっかりと成長しているのを感じる。 ・自転車の乗り方や、地域での過ごし方については、ほとんどの生徒ができていると考えているが、保護者には不安を感じている人が多く、今後も見守り活動や声掛けを行うと共に、機会を捉えて注意喚起を行っていく必要がある。
4	P T A活動について	・今年度は様々なP T A活動をコロナ禍前に戻してきたが、生徒のための活動である意識が低くなってきており、役員を決めるのも大変になってきている。今後も新しい生活様式の中で、生徒のために何ができるのかという考えを大切にしながら実施していくことが大事である。 ・今後は学校運営協議会とP T Aとが上手く絡み合った、温かい雰囲気の中で子どもとの関わりができれば、地域に根差した学校経営を行うことができ、温かい優しい子が育つと思う。
5	学校運営協議会で出された意見等	・小学校の取組、育ちが中学校に大きく影響するので、アンケート結果を本校の問題でもあるという認識で見直していく。東中の生徒がジョブチャレや金管バンドの応援に来てくれましたが、とても礼儀正しくキラキラしていました。健全に成長している姿は、小学生の目指す姿、憧れになっています。 ・落ち着いたあるいい学校づくり、学校経営ができていると感じています。 ・中学生には職場体験、スポーツ等を通じて、どんどん視野を広げてもらいたいです。 ・今年度は地域活動にたくさんの中学生ボランティアに参加をしてもらい、盛大に行うことができた。引き続き来年度もより多くの中学生に地域行事に参加をもらい、ふるさとを思う気持ちへと繋がればと思います。 ・生徒が成長しているので、中学生のボランティア活動（海岸清掃等）を積極的に推進してはどうだろうか。 ・今後は学校と地域をどうするのかをしっかりと考えていかなければいけない。そのためにも地域メンバーで東中O Bの方を増やしていくことが必要だと感じる。